

第 72 回 松江城天守創建に関わる祈祷札の発見（パート 2）

本コラムの第 25 回で、松江城天守創建に関わる祈祷札 2 枚の発見について触れた。前回のコラムを記した後、松江城天守は平成 27 年（2015）7 月 8 日に国宝指定の官報告示があり、同時に附指定となった天守創建時の紀年銘（慶長 16 年正月吉祥日）をもつ祈祷札の発見時の様子に、改めて関心が集まった。関係者やマスコミの皆さんには、その都度、乾隆明氏をはじめとする市民の皆さんのご尽力と、松江市が進めてきた調査研究の流れの中での、その時の詳細を正確に語ったつもりではあるが、話は尾ひれが付いたり、発見功労を探し出す記事となってしまう。そこで、「祈祷札再発見」（平成 24 年 [2012] 5 月 21 日）から 5 年余が既に経ったことから、当時のメモなどから再発見のその時の経過を、もう少し詳しく記しておこう。

最初のきっかけは、松江市史編纂委員の乾隆明氏からかかってきた「松江神社の棟札を調査してほしい」という稲田への電話で、平成 24 年 4 月 20 日（金）のことだった。郷土史研究者としての豊富な実績をお持ちで、地元での信頼が厚い乾氏には、日常的に古文書調査（当時、市内寺社史料調査を集中的に実施）を進めていた史料編纂室（平成 28 年 4 月から「史料編纂課」に改組）と史料所有者との間を取り持っていていただいた。その日は、松江神社関係者とともに、神社にある「棟札」の調査に出向かれ、訪れられた神社内から電話をかけられたのである。その場には乾氏と松江神社の永岡宮司さんらがいらっしゃったようで、後日、私と宮司さんとで調査のための日程調整を行ってほしいと依頼され、電話は切れた。

週が明けてから、調査日程の調整のために宮司さんと連絡を取り、春の例祭などがあることから、調査日は翌 5 月 21 日午後と決まった。

平成 24 年 5 月 21 日（月）、編纂室から稲田、内田、居石が調査に出向き、13 時 30 分頃に松江神社に到着した。調査当日は史料調査のため、島根大学の大日方克己先生にもご参加いただいた。神社に着くと、乾氏と永岡宮司さんらが棟札類を既に壁に立てて神社社務所で待っておられ、調査はすぐに始まった。史料編纂室 3 名は目録作成と写真撮影作業を分担し、私は目録作成が終わった棟札類を撮影用の白布を張った壁に立て掛け、順次撮影を行った。

調査時点で、札の 1 枚に慶長 16 年（1611）という年号が記されていることは肉眼でも確認でき、その場にいた誰もで「慶長」という年号の木札があることを確認し合っていた。しかし、寺社などの史料調査では、あまり多くはないが中世の文書に出会うこともあるし、慶長期の文書にも出会うこと

もある。松江神社での調査はいつも通り粛々と進み、みんなで棟札類を納め、調査は終了した。写真データの履歴によれば、「奉讀誦如意珠經長栄処」祈禱札を 13 時 52 分に撮影、「奉轉讀大般若經六百部武運長久処」祈禱札を 13 時 55 分に撮影している。

調査中には写真撮影など記録を正確にとることに集中しており、特に思いつかなかったが、帰りの車の中で先ほど見た慶長 16 年という年号に、ぼんやりとした疑問がわいてきた。というのも、しばらく前に石造物調査のために松江東照宮を調査し成果を纏めていたので、松江神社は明治 32 年(1899) 創建、松江神社に合祀された松江東照宮も寛永 5 年(1628) 創建ということを承知していた(「松江東照宮と圓流寺伝来の石造物について」『松江市歴史叢書 2』2010)。慶長 16 年(1611) という年号は、松江神社はもちろん、松江東照宮の創建年より古い年号なのである。ぼんやりとした疑問は、あの木札は、松江神社に伝来したものではなく、松江城のどこかから搬入されたものではないかというものだった。疑問を帰りの車中で語った記憶がある。



城戸久「松江城天守」『仏教芸術』60号、昭和41年(1966)掲載の祈禱札写真



松江市環境センター内にある史料編纂室事務室に帰ってから、調査写真の整理を行い、関係資料を一つ一つ見ていくうちに、ふと思いついたのが、以前読んだ城戸久氏が松江城天守と祈禱札について記した論文で、昭和 41 年(1966)に『仏教芸術』60号に掲載されたものだった。論文コピーを探し出し、照合したところ、論文掲載の写真と松江神社で撮影した写真とが一致した。とても驚いたが、その時点で、その日松江神社で調査し撮影を行った棟札類のうち 2 枚が、昭和 12 年に城戸久氏が確認して以来、所在が分からなくなっていた松江城天守完成年を示す祈禱札と確認したのである(2枚の祈禱札については、後日、正確を期すために島根県古代出雲歴史博物館で墨書の赤外線撮影をしていただき、『松江城研究第 2 号』に「松江城天守創建に関わる祈禱札につ

いて」〔稲田信・内田文恵・居石由樹子 2013〕として詳しく紹介した。また、城戸論文との照合などからも、昭和 12 年以降も祈祷札が保存環境の良い状態で大切に保管されていたことが分かっており、保管に関わられた皆様には深甚の敬意を表したい）。

松江城天守完成に関わる祈祷札の再発見から 5 年余りという時間をおいて振り返ってみても、（祈祷札）発見は誰かのお手柄ではないと思っている。誤解を恐れず言えば、松江城天守の国宝指定もそうかもしれない。私たちは宝探しをしていたわけではなく、（市史編纂という）地道な作業を行政が認めてくれ、外部の専門家とともに調査と研究を進める中で、市民の皆さんの協力と応援があって、結果として、松江城天守完成年の確定→松江城天守の国宝指定という、松江市にとっての一番の願いに与（あずか）ることができたのだ。史料編纂課・松江城調査研究室（平成 28 年 4 月に「松江城国宝化推進室」から名称変更）職員の日ごろの地道な努力も筆舌に尽くしがたい。言わば、市民、専門家、行政の総力戦でつかんだ「再発見」と松江城天守の国宝指定とでもいえようか。

さて、松江城天守が国宝に、祈祷札が附指定された後も、松江市では松江城や松江の歴史に関する新発見が相次いでいる。国宝指定や相次ぐ新発見の背景には、着々と進む松江市での調査研究の流れがある。

最後に、松江市での調査研究の流れという観点から、松江城の国宝指定の背景となる「松江城天守国宝と指定に至る 3 つの土台」と、「松江市史編纂事業による歴史史料の蓄積と総合的な歴史研究」について、下記のように整理しておく。

【1】松江城天守国宝と指定に至る 3 つの土台

●その1

松浦正敬松江市長は、平成 20 年（2008）3 月に市議会において松江城国宝化に向けた市民運動の醸成を提唱し、翌年の市長選マニフェストで松江城国宝化運動を発表した。同 21 年 9 月、「松江城を国宝にする松江市議会議員連盟」、「松江城を国宝にする市民の会（会長・藤岡大拙）」が発足し国宝化推進の活動が始まる。一方、松江市は同 22 年に「松江城国宝化推進室」を設け、学術調査のために「松江城調査研究委員会（委員長・西和夫）」を設置した。この年、「松江城を国宝にする市民の会」は国宝を求める 128,044 人分の署名を集め、文化庁長官に陳情する。しかし近藤誠一長官（当

時)からは、市民の熱意は認めつつも調査研究による「新たな知見」が求められた。このことを契機に、松江市はこれまで幾度となく続けてきた「お願い(陳情)」から、調査研究を通して学術的な成果を目指す姿勢に転換することとなる。

(1) 市長マニフェストで国宝化運動を発表、『松江城を国宝にする市民の会』発足(平成21年)

(2) 松江城国宝化推進室の設置と『松江城調査研究委員会』の発足(平成22年)

・西和夫氏らによる調査・研究→特徴的な建築構造の解明

・市民の会による署名活動(12万8千)→近藤誠一文化庁長官のアドバイス→新たな知見

(3) 松江市は、「お願い」から学術的な成果を目指す姿勢に転換(平成22年)

●その2

「松江開府四百年祭」を契機に、松江市は平成21年に「史料編纂室」を設け、史料調査と松江市史編集のために「松江市史編集委員会(委員長・井上寛司)」を設置した。松江市史編纂事業では、約150名の執筆体制のもと、松江市の歴史を解明する全国的な調査研究体制を整え、悉皆的な史料調査を開始した。

(1) 史料編纂室の設置と『松江市史編纂事業』の開始(平成21年)

・10年計画の「市史編纂事業」に伴う悉皆的な史料調査の開始→祈祷札の再発見

・150人の松江市史執筆体制→松江の歴史を解明する全国的な調査・研究体制

●その3

充実した史料の保存環境が備わり、松江市にとって貴重な史料の収集・保管と展示の基盤が整った。附指定となる「祈祷札2枚」「鎮宅祈祷札4枚」「鎮物3点」は同館に収納されている。

(1) 松江歴史館の開館（平成 23 年）

- ・充実した史料の保存環境、調査→研究→展示の基盤

●松江城天守の国宝指定

国宝指定に至る3つの取り組みが「松江開府四百年祭」の期間中に整い、市民の支えを受けつつ地道な調査研究と歴史史料の収集が進む中、平成 24 年 5 月 21 日、松江城天守創建年を確定する「祈祷札 2 枚」が史料編纂室の寺社史料調査により松江神社で再発見された。これを受けて松江城国宝化推進室では釘穴の痕跡から「祈祷札 2 枚」が天守地階に打ち付けられていたことを確認するとともに、昭和の解体修理時に発見されていた「鎮宅祈祷札 4 枚」「鎮物 3 点」の再評価を行った。また、西和夫氏を中心とする松江城調査研究委員会では、昭和の大修理の膨大な資料を丹念に読み込むことで天守の構造的な特徴を明らかにした。

これらが決め手となり、平成 27 年（2015）5 月 15 日、国の文化審議会は松江城天守を国宝に指定するよう文部科学大臣に答申し、同年 7 月 8 日に官報告示され、正式に国宝指定された。これに併せ、築城時の資料である「祈祷札 2 枚」「鎮宅祈祷札 4 枚」「鎮物 3 点」も附指定を受け、国宝となった。

【2】松江市史編纂事業による歴史史料の蓄積と総合的な歴史研究

松江市史編纂事業では、松江市域の歴史に関する調査研究が、多くの専門家にご参加いただき進められてきた。全国に視野を広げた調査により、松江市域に関わる考古学資料、古代・中世の文献史料、絵図・地図資料などが網羅的にまとめられ、歴史研究の基盤が整ってきた。

『松江市史』の計画的な発刊だけでなく、「松江市ふるさと文庫」、「松江市歴史叢書（松江市史研究）」、「松江城調査研究集録」などで、短期間のうちに松江の歴史を解明する 200 本を超える研究論文や報告が矢継ぎ早に発表され、全国に発信されているのは驚きでもある。

松江市域の最大の特徴は、古代から現代にいたるまで、出雲地域、島根県の政治権力の中樞が置かれた場所ということであり、まだまだ調査しきれていない驚くほどの貴重な歴史史料が残されている。引き続き、地域に埋もれている貴重な史料や、松江市保管の歴史的公文書など、松江市域の歴史史料の調査・研究を引き続き進め、史実を明らかにしていくことが大切だろう。

今後とも、市民の皆様、専門家の皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

(史料編纂課長／稲田信／2018年3月5日記)